



河小だより

校区内
全戸回覧

7月19日発行



夏休み明け8/26の自分の姿を想像して・・・

～本物をたくさん経験し、なりたい自分に～

校長 野上 孝

まず、1学期を振り返ります。

73日間の1学期。感染症の防止に努めながら教育活動を進めてきました。生活面では、マスク着用、検温、消毒、互いに距離をとるなど様々な注意事項や制約がある中、子どもたちはよく我慢してくれていると思います。コロナ禍でストレスがかかりそうな毎日であっても、校内で規律を乱したり、他人に著しく迷惑をかけたたりする行為は見られませんでした。清掃の様子などを見ても、協力的で落ち着いた雰囲気での学校生活でした。子どもたちに大きな事故や感染症で苦しむことなく、ここまで無事に学校生活を送ることができたことにほっとしています。保護者・地域の皆様のご理解、お力添えに感謝申し上げます。

さて、各学年の様子です。

低学年は植物の世話を継続して行い、1年生は大きなアサガオを咲かせました。2年生はJAの方の指導をいただき、野菜を育てています。今ではぐんぐん大きくなり、収穫できるものも出始めました。

中学年は見学や体験を通して、新たな気付きをもつことができました。3年生は総合的な学習や社会科で太鼓体験「たたこう館」に出かけたり、地域の商店のよさを調べたりしました。4年生は総合的な学習で鬼太鼓等を見せていただくなど、佐渡の伝統芸能を調べています。

高学年5年生は潮津の里で自然体験学習（キャンプ）を行いました。磯釣りや一夜干しするめ作り体験、野外炊飯など自然を満喫し、様々な体験をしました。6年生は修学旅行は延期となりましたが、金山学習などに出掛け、佐渡の歴史や文化を学びました。

学校では国語や算数などの教科の授業を行います。私たち教師は、いかに子どもたちが意欲をもって学び、考え、理解するかを常に意識し、毎日、授業の流れを考えたり資料を用意したりします。「学びを深める」ためには様々な要素が大事ですが、一つの視点として『本物』から学ぶ」ということがあります。実物、自然、人など、授業の中でそれぞれのプロ（実物）と出会い学ぶことは、物事の奥まで学ぶことにつながります。コロナ禍ではありますが、1学期も可能な限りその場をつくってきました。2学期以降も「本物」に学ぶことを積極的に取り入れ、子どもたちの意欲を高め、学びを深めたいと思います。



いよいよ夏休みです。この長期の休みならではの、また、家にいる時間が長いということで、「人」を含め、子どもたちは本物に触れる機会が増えるのではないのでしょうか。

新型コロナウイルスの感染には十分に気を付けながらも、本物に触れ、様々な体験をし、一回りも二回りも成長した子どもたちに8月26日に再会できることを楽しみにしています。この夏休みに多くの学びができますよう保護者の皆様のご支援ご協力をどうぞよろしくお願いいたします。